上尾市立大石中学校　音楽科 シラバス（第１学年）

１　基礎的・基本的な知識 および 技能の習得を目指して

・歌唱曲の作詞者・作曲者、時代背景など要素の学習を通して、音楽の基礎基本を身に付ける。
・歌唱においては、楽譜（旋律）からの音とり活動を充実させ読譜力を身につける。
・鑑賞では、作曲した音楽家の時代背景や楽曲構成の理解、ＤＶＤの鑑賞により音楽的感性の感受と音楽的要素を取り入れた文章による表現を行なう。

歌唱	声量があり、美しい声で歌うことが一番大事なので、積極的に声を出すことを目指す。音楽の授業やいろいろな行事で歌う時には、まず第一に声量があれば高い評価につながる。歌のテストでは声量・響き・美しさに一番の比重をおく。
器楽	主にアルトリコーダーの練習が中心となる。基本的なことを大切に取り組む。器楽は努力に比例して上達していくので、時間いっぱい練習に取り組む。
鑑賞	ＤＶＤやＣＤ等の音楽を鑑賞して感じたことの感想記入や、教科書を使い鑑賞する曲の楽曲背景や音楽史などを学習する。鑑賞の感想を書く場合は「凄かった」とか「良かった」の一言で感想を書いたりするだけではなく、音楽の諸要素を言葉で表現できるように、自分の言葉できちんと説明できるような学習をする。

２ 思考力・判断力・表現力その他の能力の育成を目指して

・心から音楽を楽しむ授業〈わくわく・どきどき・生き生き〉を展開するとともに、特に鑑賞では書くことで思考力を高める。
・音楽科では、生徒の発達段階や題材の特質に応じて、信頼性・客観性のある絶対評価の充実を図り、指導と評価の一体化された活動を展開することで表現力やその他の技能の向上を図る。

３ 学習意欲の向上や学習習慣の確立を目指して

・学習内容に関する興味・関心を把握し、題材における導入や展開の工夫（デジタル教科書の使用）、生徒の実態に合わせた学習の展開をする。
・授業六束から、正しい服装を整え、聴くときは聴く、歌うときは正しい姿勢で歌わせ、積極的に歌唱やリコーダーを練習し、表現できるようにする。

４　持ち物

授業の時には「音楽の教科書１」「器楽の教科書」「コーラスフェスティバル」「アルトリコーダー」「筆記用具」「ファイル」を持ってくる。なお、これらは音楽用のバッグにまとめて入れ、教室のロッカー等に置いたままでさし支えない。忘れ物をした場合は減点となるので、注意すること。また各学期末には音楽の筆記試験、実技試験を実施するので、試験前には持ち帰って学習をすること。

５　実技 および 定期テストについて

歌唱	声量、声の美しさ、音程、音楽の表情、姿勢・口のあけ方、言葉の発音等を観点とする。声量・声の美しさに一番の比重をおくが、テストの時だけ大きな声を出しても高い得点につながるわけではない。日頃の授業の取り組みが大切である。
器楽	指使いは正しいか、リズムは正確か をまず見ていく、その上で、美しい音色でなめらかに演奏できているか、曲の終わりまで演奏できたか、姿勢などをみる。
鑑賞	鑑賞の授業後の感想用紙 および 各学期の期末試験で勉強した知識の確認を行なう。

６ 評価の観点と評価規準

① 知識・技能

その時に勉強している楽曲に関係する知識が必要である。各学期末に行う定期試験の結果を中心に評価する。また、鑑賞の授業中に居眠り、私語の多い人は筆記試験の点数が規準に達していても、音楽を鑑賞する意欲が薄いものと判断し評価を Ｃ とする。

歌唱（合唱・斉唱・独唱）、器楽演奏の実技試験を行ない、その結果を重視して評価する。実技試験で声や演奏が聴こえない場合は評価ができないため評価は Ｃ とする。

【主な内容】期末試験の得点、鑑賞の取り組み状況など。
正しい音程で歌えているか、リコーダーは正しい指使いができているか、
タンギングができているか、姿勢など。

その他① 実技や鑑賞の試験が良い成績であっても、授業妨害（他の生徒への迷惑行為および学習権の侵害など）があり、指導をしても改善がない場合は、評価を Ｃ とし、評定を１とすることがあり得る。

その他② 授業態度、実技試験や筆記試験の結果によっては授業出席日数が十分であっても評定を１や２とすることがあり得る。

② 思考・判断・表現

歌唱（合唱・斉唱・独唱）、器楽演奏の実技試験を行い、その結果で評価する。

実技試験で声や演奏が聴こえない場合は評価ができないため、評価を Ｃ とする。

【主な内容】強弱や歌詞など楽曲に応じた表現ができているか、曲趣に応じた音楽的身体表現

③ 主体的に学習に取り組む態度

授業への積極的な取り組みや授業態度を中心に評価する。歌唱や器楽は得意・不得意に関係なく声量のある美しい声で歌い、自分の力で音楽を表現することが大切である。自ら進んで練習に取り組み、楽曲に向き合うことも必要となる。

ただ授業に参加しているだけで声や演奏の音が聞こえない人、練習を怠る人、私語の多い人、忘れ物の多い人は主体的に学習に取り組む気持ちが薄いと判断する。

服装は、生徒手帳 および 本校生活のきまりに遵守して授業に臨むこととする。

儀式に関わる科目でもあるので、服装や作法の育成も必要となる。服装が乱れている場合、主体的に学習に取り組む気持ちは薄いものと判断する。

授業に参加するにあたって何も持ってこなかったり、教科書やリコーダー等の忘れが多かったりする人は、音楽の主体的に学習に取り組む意欲が極度に低いものと判断し、評価を Ｃ とする。

【主な内容】授業態度、提出物の状況、忘れ物の有無、積極的に歌い演奏しているかなど。

７ 評定の主な例【観点別学習状況の評価】

十分満足できると判断されるもののうち、特に程度の高いもの：Ａ○
十分満足できると判断されるもの　　：Ａ
おおむね満足できると判断されるもの：Ｂ
努力を要すると判断されるもの　　：Ｃ○
一層努力を要すると判断されるもの　：Ｃ

※評定（５段階）は、各観点の評価（Ａ○（マル）＝５点、Ａ＝４点、Ｂ＝３点、Ｃ○（マル）＝２点、Ｃ＝１点）をもとに算出する。評価と評定の関連は、概ね下表（例）のとおりとする。

各観点の組合せ	合計点数	三観点の組合せ	合計点数	三観点の組合せ	合計点数	評定
Ａ○（マル） Ａ○（マル） Ａ○（マル）	15 点	Ａ○（マル） Ａ○（マル） Ａ	14 点			5
Ａ○（マル）Ａ Ａ	13 点	Ａ Ａ Ａ	12 点	Ａ○（マル） Ｂ Ｂ	11 点	4
Ａ Ｂ Ｂ	10 点	Ｂ Ｂ Ｂ	9 点	Ｂ Ｂ Ｃ○（マル）	8 点	3
Ｂ Ｃ○（マル） Ｃ○（マル）	7 点	Ｃ○（マル） Ｃ○（マル） Ｃ○（マル）	6 点	Ｃ○（マル） Ｃ○（マル） Ｃ	5 点	2
Ｃ○（マル） Ｃ Ｃ	4 点	Ｃ Ｃ Ｃ	3 点			1

８　学習計画

	題材	主な教材	主な到達目標
1学期	思いを込めて歌おう	校歌 上尾市歌 など	校歌を通して大石中学校生徒としての自覚を持たせ、音楽を愛好する心情と歌う意欲を育てる。
	イメージと音楽	春―第１楽章	音楽の特徴に注目しながら情景やイメージを想像し、曲や演奏に対して自分なりの考えをもって音楽を味わって聴く。
	曲想を感じて器楽演奏しよう	アルトリコーダー 奏法基礎	アルトリコーダーの基礎・基本を習得し器楽演奏する。
	曲のまとまりを感じて歌おう	主人は冷たい土の中に	曲のまとまりを感じ取って表現の工夫をする。
	日本の歌のよさに親しもう	浜辺の歌	歌詞の内容を理解し、曲の特徴を生かした表現の工夫をする。
	合唱祭に向けて	合唱祭　合唱の選曲・決定・練習	合唱祭への取り組みを通して、様々な合唱曲を聴くことで表現力と音楽を愛好する心情を育てる。
2学期	合唱祭の取りみ 混声合唱の響きに親しもう	マイ バラード クラス合唱曲	声部の役割を生かし、全体の響きに調和させて合唱する。 合唱祭への取り組みを通して意欲的に取り組む態度や表現力を工夫し、音楽を愛好する心情を育てる。
	イメージと音楽	魔王	詩と音楽が一体となった美しさを感じ取り、曲に対する自分なりの考えをもって、音楽を味わって聴く。
	日本音楽に親しむ	赤とんぼ	旋律の抑揚を生かし、伴奏の響きを感じ取り、歌詞の内容を音楽的に表現する。
3学期	わが国の伝統音楽に接する	雅楽の鑑賞	日本音楽の魅力を感じ取り、伝統音楽に親しむ心情を育てる。
		越天楽今様	雅楽を現代の楽器に置き換えて疑似体験をする。
	器楽の楽しみ	アルトリコーダーの演奏	指使い、タンギングを理解し、演奏の仕方を考え、表現を工夫する。
	卒業式に向けて	儀式用の歌 卒業式歌	1学年の最後の合唱として、心通う合唱を作り上げる。 曲の構成や曲想の変化を生かした歌唱表現を工夫する。

年度当初の授業で、生徒たちに、ほぼ同じ内容のガイダンスを行なう。

音楽の力を身につけていくためには･･･
「音楽を支える力」と「言語力」は、“車の両輪”のような関係です。言語力を身につけるために、国語の授業にしっかりと取り組みましょう。読書に親しみましょう。それが巡り巡って「音楽を支える力」を培っていきます。
さらに深く追求したい人へ、実は音楽の美しさは、たとえて言えば、９割以上を数学、物理で合理的に説明できます。数学的に分析ができない音楽の美しさはあり得ません。それはジャンルを問わず、地域を問わず、今昔を問わずです。深く追求したい人は、数学と物理をしっかり学習してください。
その上で･･･言葉では説明できないものが積み重なるから、音楽は“芸術”なのです。最初から“言葉では説明できない”というのは、本質を追求することから逃げているに他なりません。